



トラクターで田んぼを耕す小路さん。息子の洋一さんと一緒に汗を流します



すいとんの粉で作っただご汁の生地を切る小路さん



みそ仕立てのだご汁。イリコの風味がきいてます



声も大きくて耳も近い小路さん。会話も弾みます



小路さんは息子の洋一さんのズボンのほつれも直します

大正、昭和、平成、令和 4元号を生きて、95歳

この地域では「下陳米」と呼ばれる、おいしい米がとれます。トラクターで元気に田んぼを耕していたのは、小路猛さんです。何と、御年95歳。息子の洋一さん(69)と一緒に、田植への準備を始めていました。

「運転免許は返上したばってん、圃場ではまだまだ現役」と豪快に笑う猛さんは、大正14年8月30日生まれ。「大正、昭和、平成、令和と4元号を生きて、目指すは百歳」とはばからない猛さんですが、百歳どころか、これまでの町のご長寿記録を塗り替えそうなパワフルさです。

猛さんは長年、町議会議員を務め、町のために尽力してきた人です。穏やかに年を重ねた今は、家族のために料理を作るのが楽しみだとか。「だご汁を作るけん、いっちよ、食べ

ていかなね」と猛さん。お言葉に甘えて、感染防止対策をじゅうぶんととり、ご自宅にお邪魔しました。

手作りのだご汁に 心も体も癒やされて

台所に立った猛さんは、すいとんの粉で練っておいた塊を麺打ち台に広げ、麺棒で伸ばします。それから包丁を入れ、食べやすい幅に切ります。その手際の良さに、料理に慣れ親しんでいることが分かります。しばらくすると、台所においしそうな香りが漂ってきました。「ほいでけた。熱かうちに食べなっせ」。イリコの風味香る一杯にたちまち、心も体も癒やされます。

それにしても、一緒に食べる猛さんのペースの速いこと。「父は『昔んごつ食べきらん』となった』て言う

ばってん、私たちより食べる量ははるかに多いです」と息子の洋一さんが笑います。

実は猛さんは、漢字検定準1級の持ち主。「漢字にはいろんな意味があるから面白い。『墓』という字は3画の『土』で引き、『幕』は3画の『巾』で引く」と、愛読書は漢和辞典だそうです。

そしてこうも提言します。「英語もよかばってん、若い人たちにやもつと日本語や漢字ば大切にしてほしか。『デイサービス』て言うよか『大人の幼稚園』が分かりやすか」

そんな猛さんのことを「スーパードグランプ」などと紹介するならチェックが入りそう。猛さん流に表現するならば「超人翁」でしょうか。只今、梅干し作りに挑戦中です。ますますお元気で、日々楽しくお過ごしください。

だご汁、ごちそうさまでした。